

# 令和2年度 学校自己評価表

( 計画段階 ・ 実施段階 )

福岡県立小倉高等学校長



学 校 運 営 計 画				評価 (3月)		
学校運営方針		本校は、各方面でリーダーとしての役割を果たし、国際社会の発展に貢献できる有為な人材の育成を使命としている。社会の変化に柔軟に対応できる広い視野と知性・感性を持ったチャレンジ精神旺盛な若者を育てる教育活動を展開する。			A	
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		
昨年度まで3期15年実施してきたSSH事業により、学校の充実・特色化に取組み十分な成果が得られた。本年からは、SSHの成果をもとに一段のステップアップを目指し、「倉高ONLY ONE計画」を本校教育の新基軸に据え、各教育活動充実させる。その中で、「読解力・コミュニケーション能力」・「科学的思考力・判断力、活用能力」・「新時代を見出す感性と知的好奇心・探究力」を生徒に身に付けさせる。そのための教職員の意識改革、授業改善を進め、生徒・保護者及び地域等から信頼される学校づくりを推進する必要がある。		・教育内容の充実と改善をさらに推進し、自主自立の精神と適正な判断力を備えた想像力豊かで柔軟な思考力と実践力を持った生徒を育成する。	ICT機器の利活用を積極的に進め、主体的・対話的で深い学びの視点に立って、授業改善を進める。また、SDGsをテーマとする文理融合型探究活動を推進し、進路実現に効果的なキャリア教育を進める。さらに、イメージ教育を進めることで生徒の英語力を高める取組を推進する。加えて、これらの取組を進める中で学習評価の改善を図る。			
		・生徒の人格形成に資する取組を推進し、より良い社会の形成者となる生徒を育成する。	挨拶・服装・礼儀等品格ある言動を身に付けさせるとともに、特別活動を通してリーダーシップを育成する。また、主権者教育を充実させ、地域に信頼される生徒の育成に取り組む。			
		・人権教育やインクルーシブ教育を推進し、広い視野を持ち、他者への敬愛の念を抱く生徒を育成する。	自他の価値を尊重しようとする感性を養い、他者の痛みを共感的に受容できる想像力やコミュニケーション能力を育成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)		本年度の主な課題	
学習指導 (勉学)	教科指導力の向上	・教員相互の授業参観や研究授業、生徒からの授業アンケートを通して自らの授業を振り返り、教科指導力を向上させる。	A	B	A	・ICTの活用は大いに進んだが、その内容や方法についてさらに検討する必要がある。研究授業や授業アンケートを活用し、教科指導力のさらなる向上を図りたい。
		・学年にかかわらず各教科内で連携を深め、新課程に即した小倉高校独自の教科指導や評価の方法を確立する。	B			
		・大学の入試問題分析及び進学テストの問題検討会を通して、作問力の向上を図る。	B			
		・ICTの活用や、アクティブ・ラーニング型授業を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。	A			
	学習意欲の向上	・Pass(Put Away Smartphones and Study)運動など主体的で自立した学習者を育てる。	B	A	A	
		・イメージ教育の推進により英語力を高め、広い視野と知性・感性を身に付ける	A			
		・習熟度別課題や希望者添削課題などを通して、基礎学力や応用力を定着させ、自主的・主体的な学習態度の育成を図る。	A			
		・課題研究、スタディツアーなどにより、各自の進路に関する知識と意欲を深めさせ、キャリア教育の充実を図る。	A			
進路指導 (創造)	進路学習の充実	・進路講演会などによって生徒に良い刺激を与え、高い志を抱かせる。	B	B	A	・SSHの成果を活用しながらキャリア教育(倉高ONLY ONE計画)の体系化を進める。業務マニュアルの作成を行い、仕事内容の連携と効率化を進める。
		・大学や地域、他校と連携した取組をさらに推進し、指導方法や評価方法についての研究を進める。	B			
		・適切な進路情報を提供し、個人面談や個別指導を充実させることで、生徒一人ひとりの自主的な学習活動を促す。	A			
		・新大学入試制度に関する情報を常に把握しながら、将来の進路指導に向けた具体的方策を協議する。	B			
	進路希望の実現	・各期の東大10名、京大10名、九大80名、医学部医学科20名合格という目標の達成に向けて支援する。	A	A	A	
		・進学テストの作問を通して、教科内で難関大学・学部の入試問題研究を行うとともに教科指導力の向上を図る。	A			
		・基本的な生活習慣を確立し、出席率99%、出席皆勤者50%以上を目指す。	C			
		・本校の校訓に基づき、真のリーダーとして、あらゆる場面において最大の努力ができる精神力を身につけさせる。	B			
生徒指導 (規律)	規範意識の向上	・全職員が全教育活動を通して生徒の道徳心の高揚に努めることで、人を思いやる心豊かな生徒を育成する。	B	B	B	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため学校生活、学校行事、部活動などに制約が多かった。生徒が主体的に活動する機会を工夫し、できるだけ活動の場を増やす。
		・勉学と部活動、生徒会活動との両立を目指し、家庭学習時間を確保するために19時30分完全下校を堅持する。	A			
		・部活動の一層の活性化に努め、文化部・体育部併せて九州大会10部、全国大会5部の出場を目標とする。	C			
		・文化祭・体育大会・学校開放説明会の三大行事等の学校行事を通して、倉高生としての帰属意識と達成感を持たせる。	C			
	部活動・生徒会活動の活性化	・生徒会活動を通して、主体的に考え、組織的に取り組む態度を養い、リーダーシップを育成する。	B	B	B	
		・配慮を要する生徒に対して、家庭や関係機関と連携して支援や指導をする。	A			
		・学校いじめ防止基本方針に基づき5項目の取組を実施し、いじめ防止対策委員会で評価し、今後の課題を検討する。	A			
		・不登校傾向にある生徒や課題を抱える生徒の情報を全職員で共有し、家庭と連携した教育的支援を実践する。	A			
道徳教育 (勤労・敬愛)	生徒の状況に即した指導の充実	・校外におけるマナーの向上を指導し、社会生活における規範意識向上の重要性を理解させる。	B	A	A	・いじめ防止の取組や不登校傾向にある生徒やその家庭との連携はできなかった。社会生活における規範意識の重要性を理解させ人間力の向上を図る。
		・日常の清掃や地域での清掃ボランティア、除草作業を通じ、学校、地域、社会の一員としての奉仕精神を涵養する。	B			
		・全教育活動を通して、人権教育と道徳教育の一層の充実を図り、人間力の向上を目指す。	A			
		・校内におけるマナーの向上を指導し、社会生活における規範意識向上の重要性を理解させる。	B			
	モラルの向上 勤労・奉仕精神の育成	・全教育活動を通して、人権教育と道徳教育の一層の充実を図り、人間力の向上を目指す。	A	B	B	
		・校内におけるマナーの向上を指導し、社会生活における規範意識向上の重要性を理解させる。	B			
		・日常の清掃や地域での清掃ボランティア、除草作業を通じ、学校、地域、社会の一員としての奉仕精神を涵養する。	B			
		・全教育活動を通して、人権教育と道徳教育の一層の充実を図り、人間力の向上を目指す。	A			